
第2章 めざす緑の方向性

2-1 基本理念

2-2 めざす緑の方向性

2-3 緑の将来都市像

第2章

めざす緑の方向性

2-1 基本理念

緑は、都市の環境と人々の生活に深い関わりを持っています。

緑の機能は様々ですが、都市に豊かな緑・オープンスペースが存在することで自然の生態系が保たれ、潤いと個性のあるまち並みの情景が醸成され、都市の安全性が高まり、人々の活発な交流活動が展開されます。

また、本市のように自然と歴史的遺産が融和した風土を持つ都市では、こうした風土を醸成する緑が市民に住むことの喜びと誇りを与え、来訪者にも香り高い都市イメージを提供することとなります。

鎌倉市緑の基本計画は、このような多様な機能を持つ緑・オープンスペースを都市の中に調和ある形で保全・創造し、市民が生活の豊かさを実感するとともに、風格と潤いのある質の高い緑のまちづくりをめざすものです。

このためには、これらの緑の資源が都市の機能と溶けあって人・自然・歴史が共生する緑豊かな都市環境を市民とともに創造し、育んでいくことが重要です。

こうした考えに基づいて、ここでは第3次鎌倉市総合計画に掲げられた将来都市像「古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち」及び都市マスタープランでの都市づくりの基本理念「くらしに自然・歴史・文化がいきる古都鎌倉」を受け継ぎ、緑の基本計画の当初計画で示した基本理念を継承することとします。

「山と海の自然と人・歴史が共生する鎌倉」

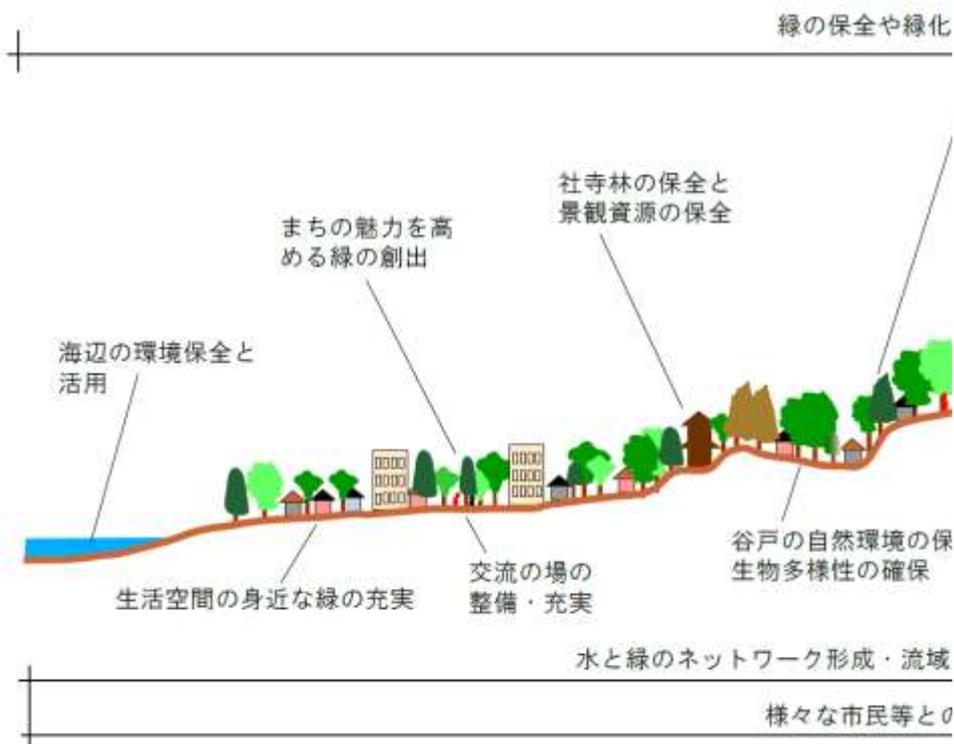


図 2-1 鎌倉市におけるグリーンインフラ形成のイメージ図

2-2 めざす緑の方向性 -グリーンインフラの考え方-

緑の基本計画は、「都市の緑とオープンスペースに関する総合的な計画」として位置づけられており、この制度の趣旨に沿って樹林地・農地・河川・公園・民有地の植栽地等を対象に、緑の保全・整備・創出に取り組んできました。

しかしながら、鎌倉市総合計画・第4期基本計画に掲げる「安全で快適な生活が送れるまち」、「都市環境を保全・創造するまち」等の将来都市像の実現や、今日的課題である「災害に強いまちづくり」、「生物多様性の確保」、「良好な都市景観形成」等の改善に、緑がより効果的な役割を果たしていくためには、これまで計画対象としてきた緑の範囲を広げ、緑とオープンスペースの多機能性を関連施設や都市全体に広げていくことが望まれます。

また、今後はこれまでの取組で得た緑の確保の成果を踏まえ、その緑をいかに適正に維持管理し、緑の質を高めてストック効果を発揮させていくかが強く求められています。

こうした取組を推進するにあたっては、SDGsにも示されている、多文化共生の視点に立った幅広い市民や事業者との連携が前提であり、その流れをより拡大させていく必要があります。

この緑の考え方は、世界的な流れである「グリーンインフラ」の概念とも共通しています。

「グリーンインフラ」とは、自然環境が有する多様な機能を活用して、様々な社会課題を解決し、持続可能で魅力ある都市・地域づくりを進める取組をいいます。本市では、既に、このグリーンインフラの概念を先取りする形で様々な取組を行ってきていますが、この方向性に沿ってさらに前進し、緑の将来都市像の実現を目指します。



本計画では、緑の基本理念、緑の機能に基づき、本市がめざす緑の考え方を次のように示します。

① 流域で考える

本市の自然の特徴は、谷戸地形が作り出す流域にあります。この流域は大地の水循環の基本単位となるものであり、生態系や地域の景観構造をつくる単位となる空間でもあります。

また、市民生活の面においても、一定のまとまりのある流域が日常生活圏を構成しています。

この流域の視点を大切にした取組を推進し、市域の緑のネットワーク形成や緑の質の向上につなげていきます。

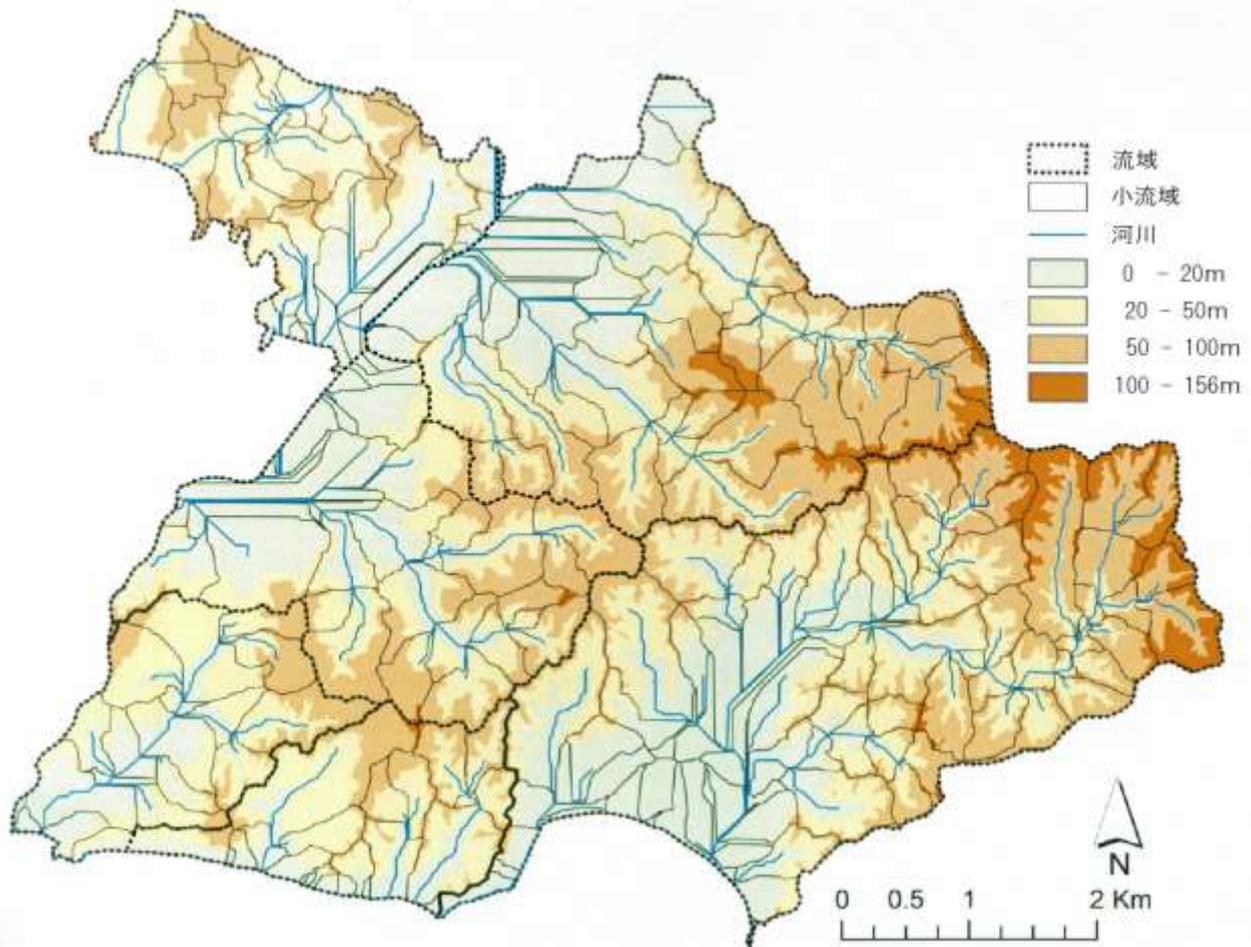


図 2-2 鎌倉市の流域図

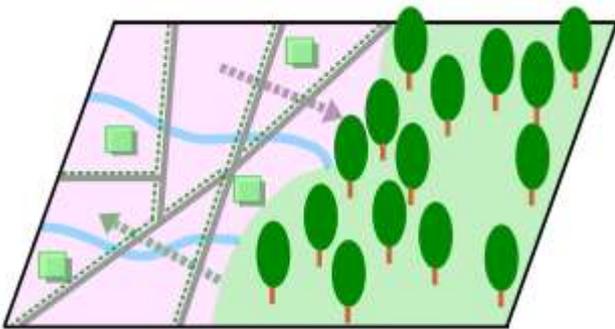
② 緑をつなぐ

都市の緑は、小規模で単体として存在するよりも、一定のまとまりや連続性を持つことでより多面的機能を発揮します。

このためには、生活空間の身近な緑から都市構造の骨格となる様々な緑を連結させて緑のネットワークを形成していくことが重要です

流域の視点を大切に、樹林地・河川を軸とする自然の緑のネットワークに加え、公共施設や住宅の緑等で構成されるまちの緑のネットワーク形成も重要です。

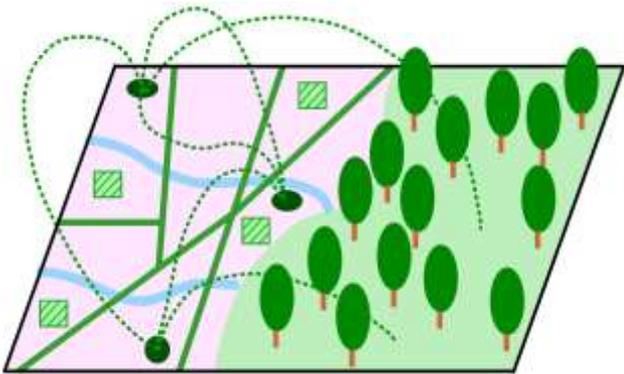
②-1 様々な施設に緑を取り入れます。



○樹林地を保全するだけでなく、公園・文化施設・道路など様々な社会インフラに緑を取り入れます。

○公共施設のほか、住宅や工場等に良好な緑の環境を創出し、建築物や施設本来の機能と緑の機能が複合的に発揮される環境を創ります。

②-2 水と緑のネットワークを作ります。



○線的な存在である川や、同じく線的な緑が連続する街路樹を良好に維持することによって、山から海までの緑の連続性を保つことができます。

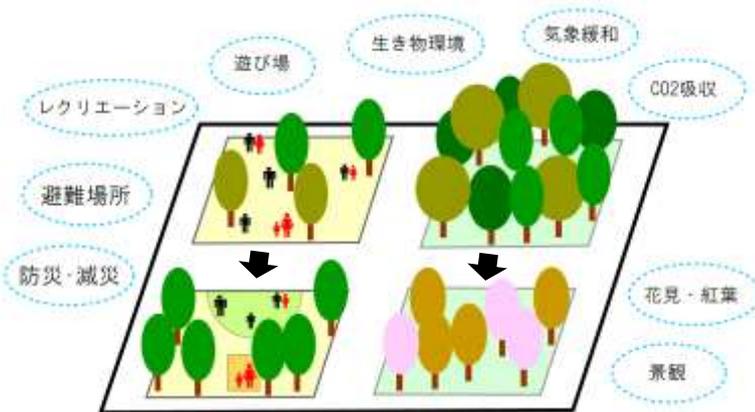
○都市公園などの公共施設の整備と民間での緑化の両方を通じて、市内にくまなく緑がある環境を生み出し、緑のネットワークを作ります。

○緑のネットワークは、防災・生物多様性保全・環境負荷低減などに効果を発揮します。

③ 緑を活かす

都市の緑がその役割に応じた機能を発揮するためには、求められる機能に応じた緑の質を備えていることが求められます。緑の適切な維持管理や施設の改善などを通じて、緑の質の向上を図っていく必要があります。

自然のもつ多様な機能を活かします。



○適切な維持管理や効果的な活用によって緑の質を高め、それぞれの緑のストック効果がより良く発揮される状況をつくります。

○市民の交流・活動の場となる都市公園等については、利用の促進と安全性の確保につながる公園づくりや管理を行います。

④ みんなで取り組む

都市の緑は市民共有の財産であり、その緑を守り・つくり・育てていくためには、年齢や性別、障害の有無などに関わらない、共生の視点に立って行政・市民・企業等が連携し、市民の総力を結集して緑の環境づくりに取り組んでいく必要があります。

多様な主体が連携し、緑のまちづくりを進めます。



○緑の基本計画の実現に向けた取組を、市民や事業者など、多様な主体との連携を前提にして進めます。

○情報の共有化、連携事業の推進などの充実を図ります。

○緑の活動の担い手を確保します。

○健康づくりや子育てなど、様々な分野とも連携し、緑のまちづくりを進めます。

2-3 緑の将来都市像

緑の将来都市像は、基本理念及び緑の方向性をイメージしたもので、緑が都市環境と市民生活に深い関わりを持って存在し、活用されている状況を描いています。

①緑が都市環境の基盤を形成している都市

○丘陵樹林地や海岸線の自然、大規模公園等が都市環境の基盤を形成する緑として一体的に保全され、防災・環境負荷調節・生物多様性保全・景観形成等に重要な役割を果たし市民の暮らしを支えています。

②緑と歴史文化が融合した都市

○古代から中世に至る歴史的遺産と緑が融合した歴史的風土が保存され、一部が歴史文化とのふれあいの場として活用されています。

○市域に分布する数多くの社寺林や史跡、伝承されている祭事等と結びついた緑が計画的に保全され、緑と歴史文化が融合した都市環境形成に重要な役割を果たしています。

③緑による安全安心が保たれている都市

○丘陵樹林地の緑が適切に保全・管理されて防災機能が高まり、市民の安全・安心な暮らしが保たれています。

○市街地火災の延焼防止に役立つ緑や、災害時の避難地となる緑が計画的に配置・整備され、災害に強い都市構造が形成されています。

④緑が環境負荷を和らげている都市

○二酸化炭素等の温室効果ガスを固定・吸収する、まとまりのある緑や市街地の緑が適切に保全・管理され、温暖化の防止や環境負荷の改善等低炭素社会の実現に寄与しています。

⑤緑の中で活発な交流ふれあい活動が広がる都市

○市街地の身近な生活空間に様々な交流活動が楽しめる公園等が整備されており、コミュニティ活動や新しい生活文化を創造する空間として利用されています。

○市域の資源を活かした歴史文化や自然とのふれあいの場が整備され、これらの活動を通じて人々の様々な交流が広がっています。

⑥身近な生活空間に緑が豊かに存在する都市

○生活空間の身近な場所に、公園・街路樹・水辺等の公共の緑や民有地の様々な緑が連続性を持って存在し、緑と共生する暮らしを大切に市民の活動と結びついて、暮らしを支え豊かにする緑が広がっています。

⑦多くの市民が緑を育てていく都市

○多くの市民や事業者が、緑の基本計画に掲げる緑の将来都市像の実現に向けた取組に参加しています。

○市民や事業者の様々な知識や経験が活かされ、市民等による主体的な緑のまちづくりが広がっています。

⑧広域的な緑のネットワークの中核をなす都市

○本市の緑を中核として隣接都市と連携し、三浦半島と多摩丘陵を結ぶ広域的な緑のネットワークが形成されています。

○本市の緑の環境づくりに、市域を超えた大学や様々な団体等が参加・協力し、広域的な人的ネットワークが形成されています。

基本理念

「山と海の自然と人・歴史が共生する鎌倉」

緑の基本計画の当初計画・平成8年(1996年)に定めた基本理念を継承します。

緑の将来都市像

